様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１３９０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ０２７０４

研究課題名（和文）生活科における非認知的な能力の育成に関する開発的研究

研究課題名（英文）A Developmental Research about Fostering Non-cognitive Abilities in Living Environment Studies

研究代表者
中野　真志（NAKANO, SHINJI）

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：９０３１４０６２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、非認知的な能力に関する国内外の心理学的、教育学的研究成果の分析・考察を踏まえた上で、生活科の学習活動において非認知的な能力を育成するための指導法と評価方法を解明し、それらを用いた単元計画と授業づくりを提案した。また、生活科のいくつかの典型的な単元のモデルプランも開発した。そして、それらの研究成果を学会で発表するとともに学術論文、学術書にまとめ、さらに、大学と大学院の授業、現職教員の研修等で活用した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究では、近年、幼児教育で急速に関心が高まっている非認知的な能力・性質に着目し、生活科において非認知的な能力を育成する開発的な研究を行った。本研究は、幼児教育と小学校教育を接続・発展させる中核な教科として重視され期待されている生活科の理論と実践において極めて重要である。また、本研究の成果を大学と大学院の授業、現職教員の校内研修、および、教育センターの研修等でも活用した。それゆえ社会的意義も大きい。

研究成果の概要（英文）：Based on the analysis and consideration of domestic and international psychological and pedagogical proceeding research results on noncognitive competencies, this study figured out teaching and evaluation methods for the development of noncognitive competencies in learning activities of Living Environment Studies, and proposed unit plans and lesson plans using these methods. We also developed model plans for Living Environment Studies. We presented the results of this study at academic conferences, wrote academic papers and compiled our papers into a book, and utilized them not only in university and graduate school classes which we teach, but also at in-service teacher training in each school and education center of prefectures that we worked as an instructor.

研究分野：生活科、総合的な学習、カリキュラム論

キーワード：生活科　非認知的な能力　社会情動的スキル　社会性と情動の学習(SEL)　総合的な学習

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

生活科では、これまで子供一人一人の思いや願いを生かす学習活動を重視してきた。そして、生活科の理論的・実践的研究の成果により、各小学校では直接体験を重視した学習活動が展開され、概ね意欲的に学習や生活する態度が子供たちに育っているという評価があり、生活科は小学校低学年における重要な教科として認知されるようになってきた。さらに、幼児教育との接続と発展を意識した 「スタートカリキュラム」 が、平成 20 年の 『小学校学習指導要領解説　生活編』 で明記された。小学校学習指導要領（平成 29 年）では第 1 章総則において、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の中心的役割を果たす教科として生活科が重視され期待されている。しかしながら、依然として生活科には 「活動あって学びなし」 という批判があり、また、スタートカリキュラムの取組も大きな成果を上げている学校がある一方で、全国的にはなかなか取組が進んでいないという現状がある。

ところで、近年、非認知的な能力・性質への関心が、特に幼児教育において急速に高まっている。それらの能力・性質は非認知的能力、非認知的スキルと表現されることも多く、粘り強さ、好奇心、自制心、誠実さ、社会情動的な能力・性質等である。この発端は、2000 年にノーベル経済学賞を受賞した J.J.ヘックマン(Heckman)の研究によるところが大きい。日本でも 2015 年に彼の著書が、『幼児教育の経済学』(東洋経済新報社) として翻訳・出版され反響を呼んでいる。一般に、IQ テスト、学力試験、および OECD による生徒の学習到達度調査（PISA）等で測定される認知的能力が注目されるが、この著書では 40 年にわたる追跡調査により、非認知的な能力が認知能力に影響し、また社会的な成功にも貢献すること、認知的能力も非認知的な能力も幼少期に発達し、その発達は家庭環境によって左右されることを指摘し、それゆえ、幼少期に力を注ぐ公共政策が重要であることを主張している。この現状において、生活科という教科の特質及びその趣旨においても非認知的能力が極めて重要であると言える。

２．研究の目的

本研究の目的は、非認知的能力に関する国内外の心理学的、教育学的な研究成果の考察を踏まえた上で、生活科において非認知的能力を育成するための指導法と評価方法を解明し、それらを用いたモデルプランを開発することである。このような目的を達成するために、本研究では、①生活科に応用可能な非認知的能力に関する心理学的、教育学的研究成果とは何か、②生活科における非認知的能力を育成するための指導法とはどのようなものか、③生活科における非認知的能力を育成するための評価方法とはどのようなものか、④生活科における非認知的能力を育成するためのモデルプランとはどのようなものかという学術的「問い」を設定して、教員養成大学・学部に所属する４名の教員、さらに現職の小学校教員である実践協力者により、生活科における非認知的能力の育成に関する開発的研究を行う。

３．研究の方法

国内外の非認知的能力に関する心理学的、教育学的研究の文献を収集し、それらを分析・考察する。特に幼児教育から小学校低学年への接続と発展に寄与するような理論的・実践的研究の資料を収集し、それらを生活科における非認知的能力の育成に応用可能であるかどうかを検討する。なお、これまでの我々の研究成果により、米国のサービス・ラーニングも非認知的な能力の育成に寄与すると考え、それに関する文献の収集、分析・考察も本研究に組み入れる。また、本研究におけるモデルプランのアクションリサーチを視野に入れ、日本生活科・総合的学習教育学会の学会誌、ブックレットに掲載された実践等について、生活科の授業実践で重視されている非認知的能力とは何か、また、それをいかに育成しようとして来たのか、これまでの実践的知見を解明する。開発したモデルプランをアクションリサーチで検証することを視野に入れ、生活科における非認知的能力を育成する指導法と評価方法の解明のために、実践協力者との協同研究を行う。すなわち、開発した指導法や評価方法を採用した単元を構想し、実際の授業においてその教育的効果を検証する。その検証のために、教師と子供へのアンケート調査とインタビューを実施して、その調査結果についてテキストマイニング手法を用いて分析・考察する。また、それらの調査結果と研究成果に基づいたモデルプランの開発においても実践協力者との協議を継続して行う。また、それぞれの年度における研究成果を日本生活科・総合的教育学会を中心に関連する学会の全国大会で発表するとともに、各学会誌等への学術論の投稿も行う。

４．研究成果

2019 年度では、愛知県 K 市の A 小学校でスタートカリキュラムのアクションリサーチを行った。実際にスタートカリキュラムを開発し、幼保育園及び小学校 1 年生の担任と 15 名の子供たちへの入学前から入学後数ヶ月にわたりインタビューを実施した。そのデータを基にテキストマイニングによる分析を行い、スタートカリキュラムの教育効果を検証した。次に、米国のサービス・ラーニングの先行研究を参考にしながら、小学校の教科等の中で生活科と親和性の高い、総合的な学習で非認知的な能力を育成するための理論的枠組みを検討し、総合的な学習が非認

知的スキルの育成に寄与する可能性が高いことを論証した。加えて、小学校における非認知的な能力に関する指導事例の分析と考察のために、生活科と総合的な学習の先進校として全国的に有名な奈良女子大学附属小学校と富山市立堀川小学校での公開授業を参観し調査研究を行った。前者では、2年生の「しごと」と「朝の会」、後者では４年生の総合的な学習の「食品ロス」、「富山湾」に関する授業記録と映像記録等の研究資料を入手できた。

2020 年度では、非認知的な能力、社会情動的スキルに関する心理学及び教育学の文献を収集し、それらの分析・考察を行った。新たに社会性と情動の学習（Social and Emotional Learning）が本研究に関連することが明らかとなり、それらに関する国内外の先行研究の動向を調べ、関連する論文と文献の収集を行い、いくつかの英語論文の翻訳を行った。また、日本生活科・総合的学習教育学会のすべての学会誌及びブックレットに掲載されている学術論文、実践論文を PDF 化して整理し、どのような観点と方法で分析・考察するのかの検討を試みた。非認知的な能力、社会情動的スキル、および、社会性と情動の学習に関する理論的な枠組みを応用できると考えている。さらに、今後のアクションリサーチを促進するため、愛知県 T 市立 J 小学校での授業観察と資料収集、生活科における非認知的な能力を育成するための指導法の改善と検証、実践協力者との研究会を行った。また、愛知県 K 市の Y 保育園を訪問し、2 歳児、3 歳児、4 歳児、5 歳児と保育士とのかかわり方に関して、非認知的な能力を育成するための評価指標による観察と評価を行った。生活科における非認知的な能力の育成に関して知性との関連、生活科と他教科等における認知的な領域との関連を軽視すべきではないことを改めて認識した。

2021 年度では、非認知的な能力、社会情動的スキル、および、社会性と情動の学習に関する心理学と教育学の文献を収集し、それらの分析と考察を行った。特にアメリカにおける「学術的、社会的、情動的な学習の協働」（CASEL）の活動に着目した。CASEL の創設からその後の活動の展開、主な出版物の内容、その理論的な枠組み、その教育実践を推進するための主要な環境である教室、学校、家庭、および、地域社会での方策等の概要を論文にまとめた。これまでの本研究の経過から、認知的な能力と非認知的な能力の調和的な育成の重要性が明らかとなった。それは、CASEL の研究活動、実践活動からも明白である。それゆえ、生活科と総合的な学習で育成を目指す資質・能力に関して、認知能力と非認知能力の視点から分析し、それらの関係性とそれらの育成のための学習指導の在り方について考察し論文にまとめた。本研究のアクションリサーチとして、愛知県 T 市立 I 小学校における生活科の授業の参与観察を継続的に行い、観察結果の確認、省察、指導計画、振り返り等を担任教師と協同して実施した。加えて、本研究の幼小接続という問題意識から、非認知的な能力の育成を視点として名古屋市にある私立 K 保育園の異年齢クラスの保育を観察してビデオ撮影を行い、保育士へのインタビュー調査も実施した。

2022 年度では、昨年度に引き続き、非認知的な能力、社会情動的スキル及び社会性と情動の学習(SEL)に関する心理学と教育学の文献の収集、分析・考察を行った。主に、J.J.ヘックマンの『幼児教育の経済学』、OECD の社会情動的スキル、「学術的、社会的、情動的な学習」（CASEL）等の研究である。それらの分析・考察を踏まえた理論的な枠組みをもとに、学習指導要領における生活科の創設とその後の改訂の経緯を考察した。また、生活科で育成を目指す資質・能力について、知性、社会性、情動の視点から捉え、現行学習指導要領における資質・能力の三つの柱の関係性を明らかにした。これらは相互補完的・調和的な関係にあり、特に小学校低学年の教科である生活科には、これらの壁が曖昧であり不可分であるところにその特質があるといえる。加えて、社会情動的スキルを高める生活科の単元計画と授業づくりについて提案した。気付きの質の高まりと認知的スキル、社会情動的スキルの関係を明らかにした上で、社会情動的スキルを組み込んだ評価基準の作成、および、指導や支援の方法について明らかにした、いくつかのモデルプランを提案した。さらに、奈良女子大学附属小学校における２年生の優れた教育実践を「CASEL の輪」を中心とした理論的枠組みによって分析・考察した。これらの研究成果は、中野真志・西野雄一郎共編著『資質能力時代の生活科―知性と社会性と情動のパースペクティブ―』(三恵社、2023 年）に組み込まれている。これまでの本研究の経緯から、認知的な能力と非認知的な能力の調和的な育成の重要性が明らかとなった。従って、「社会性と情動」に「知性」を加え、生活科における知性と社会性と情動の学習という継続的で発展的な研究に取り組み必要性があると思われる。その準備段階として、2022 年 8 月 26 日に愛知教育大学において、富山市立堀川小学校の教諭と奈良女子大学附属小学校の元教諭を招いて、「生活科・総合的な学習における知性と社会性と情動の学習」をテーマとする鼎談と研究協議会を開催し、研究者、現職教員、大学生等、多数の参加者を得た。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　8件）

１．著者名 中野真志	４．巻 なし
２．論文標題 知性と社会性と情動のパースペクティブ（第１章）	５．発行年 2023年
３．雑誌名 中野真志・西野雄一郎共編著『資質能力時代の生活科』（三恵社）	６．最初と最後の頁 7-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中野真志	４．巻 なし
２．論文標題 生活科における「知性と社会性と情動」の考察ー学習指導要領における生活科の創設とその後の各改訂からー（第３章）	５．発行年 2023年
３．雑誌名 中野真志・西野雄一郎共編著『資質能力時代の生活科』（三恵社）	６．最初と最後の頁 49-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 加藤智	４．巻 なし
２．論文標題 生活科で育成を目指す資質・能力と知性、社会性、情動（第４章）	５．発行年 2023年
３．雑誌名 中野真志・西野雄一郎共編著『資質能力時代の生活科』（三恵社）	６．最初と最後の頁 72-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 金津琢哉	４．巻 なし
２．論文標題 生活科を軸とする知的探究と社会的、情動的な学習との結合（第７章）	５．発行年 2023年
３．雑誌名 中野真志・西野雄一郎共編著『資質能力時代の生活科』（三恵社）	６．最初と最後の頁 145-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 神谷裕子	４．巻 なし
２．論文標題 社会情動的スキルを高める生活科の授業ー気付きの質の高まりを通して（第５章）	５．発行年 2023年
３．雑誌名 中野真志・西野雄一郎共編著『資質能力時代の生活科』（三恵社）	６．最初と最後の頁 97-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 神谷裕子	４．巻 第11号
２．論文標題 生活科における主体的に学習に取り組み態度の評価指標の開発ースタートカリキュラムの実践を通してー	５．発行年 2023年
３．雑誌名 教科開発学論集	６．最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中野真志	４．巻 第7号
２．論文標題 アメリカにおける社会性と情動の学習(SEL)－「学術的、社会的、情動的な学習の協働」（CASEL)を中心に－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要	６．最初と最後の頁 159－166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 加藤智	４．巻 第17号
２．論文標題 生活科で育成される資質・能力と学習評価に関する一考察	５．発行年 2022年
３．雑誌名 愛知淑徳大学教育学会『学び舎－教職課程研究－』	６．最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤智	4．巻 第47号
2．論文標題 「新学習指導要領における総合的な学習の時間が育成する資質・能力－認知的能力・非認知的能力の視点からの考察－	5．発行年 2022年
3．雑誌名 愛知淑徳大学文学部『愛知淑徳大学論集－文学部篇－』	6．最初と最後の頁 65－79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤智	4．巻 第46号
2．論文標題 「総合的な学習の時間が育成を目指す資質・能力の動向と展望」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 愛知淑徳大学文学部『愛知淑徳大学論集－文学部篇－』	6．最初と最後の頁 93～108頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤智	4．巻 第16号
2．論文標題 「総合的な学習（探究）の時間における『整理・分析』の改善と充実」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 愛知淑徳大学教育学会『学び舎－教育課程研究－』	6．最初と最後の頁 3頁～14頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 神谷裕子	4．巻 第１６号
2．論文標題 スタートカリキュラムの効果の検証ーAIテキストマイニングの分析を通して	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『生活科・総合的学習研究』	6．最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤智	4．巻 第８号
2．論文標題 非認知的スキルの育成に資する総合的な学習に関する基礎的研究	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『教科開発学論集』	6．最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加藤智	4．巻 第15号
2．論文標題 小学生の非認知的スキルの測定に関する基礎的研究	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『学び舎ー教職課程研究ー』	6．最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 金津琢哉
2．発表標題 生活科と特別活動等との統合的な学習指導：CASEL5を踏まえた事例研究
3．学会等名 日本生活か・総合的学習教育学会第31回全国大会（オンライン）
4．発表年 2022年

1．発表者名 金津琢哉
2．発表標題 非認知的能力を育成する指導法－奈良女子大学附属小学校・富山市立堀川小学校の事例をもとに－
3．学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会第30回全国大会（オンライン）
4．発表年 2021年

１．発表者名 早川正貴・金津琢哉
２．発表標題 生活科を軸に非認知的能力を育成する指導と評価－コロナ禍における小学校1年生の記録から－
３．学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会第30回全国大会（オンライン）
４．発表年 2021年

１．発表者名 加藤智
２．発表標題 総合的な学習の時間が育成するコンピテンシースキルに関する一考察
３．学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会第30回全国大会（オンライン）
４．発表年 2021年

１．発表者名 加藤智
２．発表標題 「総合的な学習の時間が育成する非認知的スキルに関する実証的研究」
３．学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会第29回全国大会（オンライン）
４．発表年 2020年

１．発表者名 加藤智
２．発表標題 「『サービス・ラーニング型』総合的な学習の時間が育成する非認知的スキルに関する研究」
３．学会等名 日本教科教育学会第46回全国大会（紙面発表）
４．発表年 2020年

１．発表者名 神谷裕子
２．発表標題 幼児教育から小学校教育への学びの接続ースタートカリキュラムの試行と検証ー
３．学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会第28回全国大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 加藤智
２．発表標題 総合的な学習の時間における非認知スキルの育成に関する一考察
３．学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会第28回全国大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 金津琢哉
２．発表標題 学習法の受容と実践及び地方における展開に関する研究ー尾石忠正氏「あしあと」に焦点をあててー
３．学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会第28回全国大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計3件

１．著者名 中野真志・西野雄一郎（共編著）	４．発行年 2023年
２．出版社 三恵社	５．総ページ数 185
３．書名 資質・能力時代の生活科ー知性と社会性と情動のパースペクティブー	

１．著者名 中野真志	４．発行年 2020年
２．出版社 勁草書房	５．総ページ数 9
３．書名 第19章「『民主主義と教育』におけるリフレクション－探究・体験型学習の理論的基底－」（日本デューイ学会編『民主主義と教育の再創造－デューイ研究の未来へ』）	

１．著者名 中野真志	４．発行年 2021年
２．出版社 愛知教育大学出版会	５．総ページ数 20
３．書名 第６章「ジョン・デューイの『子どもとカリキュラム』」（愛知教育大学大学院共同教科開発学専攻篇『教科開発学を創る　第３集』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	加藤　智 (KATO SATOSHI) (00619306)	愛知淑徳大学・文学部・准教授 (33921)	
研究分担者	金津　琢哉 (KANAZU TAKUYA) (20633522)	東海学園大学・教育学部・教授 (33929)	
研究分担者	神谷　裕子 (KAMIYA HIROKO) (70826669)	東海学院大学・人間関係学部・講師（移行） (33705)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関